

FORUM REVIEW AF104

テーマ：“公園”が生み出す都市の中の新しい空間
価値と利用価値

講師：町田 誠氏 一般財団法人公園財団 常務理事
／元国土交通省公園緑地・景観課長

日程：2022年4月25日



指定管理者制度（2003年施行）やPark-PFI（2017年施行）を活用した公園づくりが増えてきた。民間の発想を生かした経営効率化の手法の導入や利用者に対する接客やサービス提供のノウハウの発揮等により、民間事業者の能力を最大限に引き出した公共サービスの質が向上してきており、社会資本としての公園の利活用が進む土壌が出来上がってきている。例えば、都市公園法の設置管理許可制度を活用した豊島区南池袋公園は、公園のリノベーションがエリアに対して大きな影響をもたらすことを示した好例である。人が集まりやすい仕掛けづくりに成功し、常に公園は賑わい、その賑わいは周辺にも波及している。

しかし、これら制度は、大きな公園や都心の公園に使われることが多く、生活に身近な街区（児童）公園が含まれる住区基幹公園約10万箇所は、禁止看板だらけで誰もおらず、社会の役に立っているのか疑問な場所も多い。最近では、道路や河川等の公共空間も考え方が変わってきており（道路に芝生を敷いて公園化した丸の内仲通り、河川空間をまちづくりの一部として活用するミズベリングの活動等）、特に小さな公園の積極的な利活用を引き続き考え、公共団体に帰属する人に限らず、新しい公園の管理方法を切り開いていってほしい。単なる空間デザインではなく、公園で過ごす人の時間デザインを行う、都市生活デザインに軸を置き、公園の管理運営、あるいはそこに向けた多様な整備手法を考えいく必要があるのではないかな。

千葉大学園芸学部を卒業後、建設省（当時）入省。さいたま市技監、東京都建設局公園緑地部長、国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長、公園緑地・景観課長などを歴任。2018年国土交通省退職。現職のほか、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授、国土交通省 PPP サポーターなど。

公園種別	箇所数	面積ha
住区基幹公園	97,675	35,049
街区公園	90,031	14,457
近隣公園	5,832	10,513
地区公園	1,812	10,080
都市基幹公園	2,228	39,470
総合公園	1,389	26,401
運動公園	839	13,069
大規模公園	230	15,789
緩衝緑地等	12,388	34,472
国営公園	17	4,306
合計	112,716*	129,187*
港湾緑地・児童遊園・その他の公園緑地	44,798	24,433
総合計	156,323	152,697

*令和2年度東京都公園等現況調査（国土交通省2021.3.31）合計値には認定市営緑地等を含む

図1 公園等のストック量



図2 時間(生活)デザインへの移行・進化